

3 原則と春闘で意見交換－労ペンと全労生

3月2日、2016春闘をめぐり全国労働組合生産性会議（全労生、相原康伸議長=自動車総連会長）と意見交換懇談会を持った。

労ペンから稲葉代表ほか24人のメンバーが、全労生側から相原議長、神保政史・電機連合副中央執行委員長ら6人の副議長、久保直幸事務局長が出席した。日本生産性本部からは北浦正行参与ら4人が同席した。



相原議長は、繰り返される「負の連鎖」を断ち切る生活闘争が必要だ、とあいさつ。稲葉代表は「（政権から）同一労働同一賃金が言われている今こそ大きなチャンスだ」として賃上げ春闘に期待を寄せた。

昨年夏就任した全労生の久保事務局長から活動報告を受けた後、生産性3原則（雇用の維持・拡大、労使の協力・協議、成果の公正分配）と春闘の在り方をめぐり意見交換した。全労生はこの2月、春闘労使協議に当たり「春闘はじめあらゆる場での『確かな将来』を見据えた協議を期待する」とする「主張」を公表。その中で▽賃金の積極的な引き上げ▽規模間、雇用形態間格差の解消で「公正な分配」を求めている。

雇用形態格差解消では「非正規労働者にとって、処遇が合理的であり、納得性の高いものとする事は労使の責務だ」としている。（麻生英明）